

新国立競技場整備事業の 優先交渉権者の選定結果について

平成27年12月22日

独立行政法人

日本スポーツ振興センター

JAPAN SPORT
COUNCIL

新国立競技場整備事業の優先交渉権者(事業者)選定までのプロセス

	関係閣僚会議等	日本スポーツ振興センター
7月	○関係閣僚会議[第1回](7月21日) - 新国立競技場の整備計画の見直しについて ○遠藤大臣によるアスリート等との意見交換(7月21日～8月25日で、計29回実施)	
8月	○関係閣僚会議[第2回](8月10日) - 都知事、アスリートとの意見交換 ○関係閣僚会議[第3回](8月14日) - 新国立競技場整備計画の再検討について ○関係閣僚会議[第4回](8月28日) - 新国立競技場整備計画の再検討について(「新国立競技場の整備計画」、「業務要求水準書」の決定)	○技術提案等審査委員会[第1～3回](8月17日、25日、26日) - 業務要求水準書(案)の作成
9月		○新国立競技場整備事業に係る公募手続の開始(9月1日) ○競争参加資格確認申請書の提出期限(9月18日)
10月		○技術提案等審査委員会[第4回](10月6日) ○競争参加資格の確認結果の通知(10月6日)
11月		○技術提案等審査委員会[第5回](11月13日) ○技術提案書の提出期限(11月16日)、要求水準に関する「技術的事項の確認」の実施 ○技術提案等審査委員会[第6回・第7回](11月24日、27日) - 技術提案に関する「技術的事項の確認」の実施
12月	○関係閣僚会議[第5回](12月22日)	○「技術提案書」の公開(12月14日) ○アスリート・競技団体等との意見交換(12月15日～12月17日で、計7回実施予定) ○技術提案等審査委員会[第8回](12月19日) - ヒアリング審査 ○優先交渉権者の決定

技術提案書の概要(事業費・工期)

		A者	B者
事業費 (税込)	建設費	148,999,932千円	149,688,000千円
	設計・監理等費	3,985,848千円	3,996,000千円
工期		平成31年11月末	平成31年11月末

技術提案等審査委員会の審査結果

項目（委員1名当たりの配点）	
業務の実施方針（20）	
コスト・工期	事業費の縮減（30）
	工期短縮（30）
	維持管理費抑制（10）
施設計画	ユニバーサルデザインの計画（10）
	日本らしさに配慮した計画（10）
	環境計画（10）
	構造計画（10）
	建築計画（10）
合計点	

審査結果（委員7名の合計点）	
A 者	B 者
112	104
31	28
177	150
44	50
48	53
50	52
54	50
52	55
42	60
610	602

本事業は、明治神宮外苑の歴史と伝統ある環境の中で、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のメインスタジアムを建設する「ナショナルプロジェクト」である。その要求水準は多岐にわたり、特にコスト、工期に関する難易度が高く、上限、期限が定められるとともに、設計・施工を一貫して行う公募型プロポーザル方式（設計交渉・施工タイプ）が採用されている。

今回提出された二つの応募案は、いずれも施設の目的、その内容を示した「要求水準」をよく理解した上で、設計・施工を一貫して行う方式の特徴を十分に発揮した意欲的な提案となっている。

以下、A・B両者の提案の特色を簡潔に述べる。

A者の提案は、

- 観客席を上・中・下の3段にまとめ、それを鉄骨構造で支持し、その構造躯体の上部から、鉄骨と木材を併用した片持梁の大屋根を伸ばして、観客席を覆うかたちをつくっている。
- 外周には、3層の庇を巡らし、その上にプランターを並べ施設全体を緑で包むことが意図されている。
- 大屋根の下面や庇下部、内装などに利用される木材が、日本らしさを生み出す要素となっている。

B者の提案は、

- 観客席を大きく上・下の2段にまとめ、その全体をPCコンクリートの構造体で組み上げ、中間に免震装置を設置する構造としている。また、観客席を覆う大屋根は、大断面の集成材柱の上に乘せられた鉄骨梁で支えられているが、この鉄骨梁は、屋根の重さと平衡するように、建物外周で下に引っ張られ天秤状の構造をつくり出している。
- 建物全体をコンパクトにまとめた上で、ボウル状の観客席の下部を外面に現すことによって、外苑の森に対する威圧感を軽減し、巨大施設と周辺環境とを融和させることが意図されている。
- 建物外面を一周する72本の木造大柱は、日本の伝統建築につながるかたちをつくり出している。

(次頁に続く)

(前頁からの続き)

これらの提案に対し、新国立競技場整備計画再検討のための関係閣僚会議で決定された「新国立競技場の整備計画」を踏まえ、本委員会において決定した審査基準(業務の実施方針(20点)、コスト・工期(70点)、施設計画(50点))に沿った評価を行うべく、8回の委員会のほか、専門的内容に関する検討会を13回開催し、専門的知見を有する委員間で議論を重ねるとともに、347項目に及ぶ技術的事項の確認を行うなど、綿密な審査を行った。

委員7名それぞれが、審査項目ごとに採点を行ったものを合計した結果、A者610点、B者602点となった。

A者においては、業務の実施方針、工期短縮、環境計画などが評価され、B者においては、建築計画が高く評価され、維持管理費抑制、ユニバーサルデザインの計画などが評価された。

限られた期間の中で、これほど高いレベルの提案をまとめた二者の設計・施工の技術力やその提案力を高く評価するとともに、その熱意に多大なる敬意を払うところである。

今回の技術提案において示された様々な優れた知見が、今後の設計・施工に活かされ、竣工した新国立競技場において、全てのアスリートが最高の力を発揮し、世界中に感動を与え、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を成功に導き、さらに、その遺産として、後世の人々に長く愛され活用される施設となることを期待する。

なお、本事業の選定プロセスにおいて、先例のない形で技術提案書が公開されたが、こうした取組みを通じて、オリンピック・パラリンピックへの国民の関心が高まることは大変有意義であり、引き続き、透明な整備プロセスとなるよう、積極的に取り組んで頂きたい。

新国立競技場に関する国民・アスリート等からの意見募集

JSC特設サイトに寄せられた国民からの意見

1, 107件（12月14日（月）～） ※件数は、12月21日（月）17:00時点

アスリート等との意見交換

日時		意見交換会参加者
12月15日（火）	14:30 ～ 15:00	公益財団法人 日本陸上競技連盟
	16:00 ～ 16:30	公益財団法人 日本オリンピック委員会
12月16日（水）	9:30 ～ 10:00	公益財団法人 日本サッカー協会
	11:00 ～ 12:00	朝原 宣治 氏（オリンピック;陸上競技） 河合 純一 氏（パラリンピアン;水泳） 根木 慎志 氏（パラリンピアン;車いすバスケットボール）
	14:30 ～ 15:00	公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会（日本パラリンピック委員会）
12月17日（木）	10:00 ～ 11:00	北澤 豪 氏（サッカー） 清宮 克幸 氏（ラグビー） 金 哲彦 氏（マラソン指導者、陸上競技解説者） 山口 香 氏（オリンピック;柔道） ヨーコ ゼッターランド 氏（オリンピック;バレーボール）
	15:00 ～ 16:00	岡田 武史 氏（サッカー） 平尾 誠二 氏（ラグビー） 溝口 紀子 氏（オリンピック;柔道、社会学者） 室伏 広治 氏（オリンピック;陸上競技）

趣 旨

新国立競技場整備事業(設計業務及び新営工事)の調達にあたり、設計・施工一貫による調達の実施等について、技術提案等に係る審議に関し、専門的かつ公正な調査審議を実施するため、独立行政法人日本スポーツ振興センター(以下「センター」という。)に新国立競技場整備事業の技術提案等審査委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

審議事項

委員会は、新国立競技場整備事業の調達に関し、次に掲げる事項を調査審議する。

- ① 技術提案の審査等に関すること。
- ② 優先交渉権者との価格等の交渉に関すること。
- ③ その他センター理事長が必要と認める事項に関すること。

委 員

秋山 哲一	東洋大学教授	
工藤 和美	建築家／東洋大学教授	
久保 哲夫	東京大学名誉教授	
香山 壽夫	建築家／東京大学名誉教授	
深尾 精一	首都大学東京名誉教授	
○村上 周三	東京大学名誉教授	
涌井 史郎	東京都市大学教授	(50音順、○:委員長)